

鹿児島県構造物メンテナンス協会 技術研修会を開催

平成20年6月10日、鹿児島県市町村自治会館にて、鹿児島県構造物メンテナンス協会の技術研修会が開催されました。当日は悪天候にも関わらず、41社101名の方々が受講されました。

株式会社ダイフレックスとしてレジテクト工法の研修は一昨年にも致しましたので、2回目の参加となります。そこで、今回はSQSSAシステム工法協会（以下SQSSA）の九州地域での広報活動として参加させて頂きました。

午前中はMLR協会（人孔更正工法）の説明があり、午後からの2時間を、SQSSAの時間として頂きました。本協会は昨年SQSSAに特別会員として入会されています。しかし協会会員の皆様にはまだSQSSAについての認知度が低い為、SQSSAの説明から研修をスタート致しました。

その後、前回はレジテクト工法の特徴や認証登録等をお話ししていましたので、今回は施工事例を中心に説明致しました。そして、昨年メーカー会員として入会した恒和化学工業株式会社（鹿児島営業所 祝所長）に、セメンシヤスを始めとする土木用材料についての説明、紹介を約30分程度して頂きました。

長時間の研修にも関わらず、鹿児島県構造物メンテナンス協会の皆様が熱心に受講されている様子は、新しい工法や材料の知識を貪欲に得ようとしている姿だと感じました。研修後も活発に質疑を受け、圧倒される程でした。

鹿児島県構造物メンテナンス協会では、今後もこのような研修会を開催し会員の皆様の技術向上を図っていくとのことです。私共もSQSSAの会員として、今後も鹿児島県構造物メンテナンス協会の発展の為のお手伝いをさせて頂くつもりです。

福岡営業所 大西 政幸



EE東北'08 SQSシステム工法協会で出展

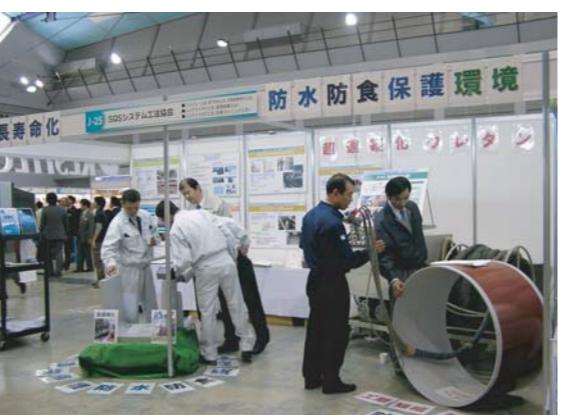
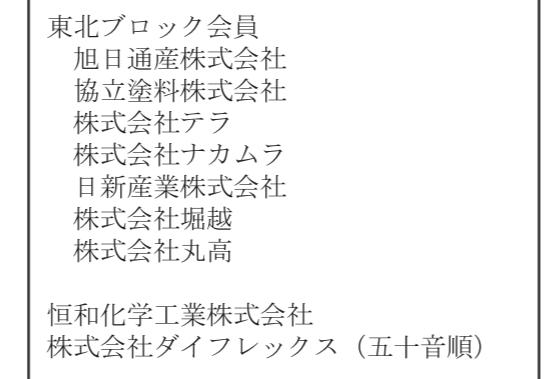
建設技術公開「EE東北」は、建設事業に係わる新材料・新工法など、時代のニーズを踏まえて開発された新技術を一般公開するものです。今年で19回目の開催となり「夢ひろげ未来につなぐ新技术」をキヤッチフレーズとして夢メッセみやぎにて関連企業等159社が出展（新技术は343件）し、6月4日と5日の二日間で6,500人の来場者を迎えるました。

SQSシステム工法協会の広報活動として東北ブロックのメンバーで出展した今年は、4回目の出展となり、新たに営業会員の参加でパワーアップしました。各社の役割分担も手馴れた中で設営段取り、二日間の展示会運営が行われました。当ブースは2コマ（3×6m）の展示スペースで「防水・防食・環境・構造物の長寿命化」をキーワードにテクトマシーン、CVスプレーの鋼管及びベンチレーションブロックのサンプル、各工法のパネルを設置、体験コーナーでは超速硬化ウレタン樹脂の手混合での硬化スピード、ハンマーでの耐衝撃性、シート状にした時の剛性と伸縮性等様々な手法で多くの来訪者に説明ができました。

例年の如く、中日の夜はメンバーの懇親会も開催され、活発な意見交換もあり親睦が深められました。

今年の当ブース来訪者の特徴としては、国土交通省、県土木等の施主、ゼネコン、コンサルタント等仕事に直結しそうな話が多く、広報活動としては大成功を収めた結果となり、今後の営業活動に勢いを付けていきたいと思います。

レジテクトグループ 課長 小倉 克之



熱心に聞き入る来訪者



発行：レジテクトBN本部

〒163-0823
東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル23F
株式会社ダイフレックス
TEL:03-5381-0666 FAX:03-5381-0670
MAIL:resitct_honbu@dflex.co.jp
URL:<http://www.resitct.net/index.html>

夏号掲載内容

- P-1 : SQSSA総会・BN事業責任者会議 開催
- P-2 : 東京メトロ副都心線（13号）開通
- P-3 : CVスプレー工法・BT工法紹介
- P-4 : 頭首工THXスプレー工法紹介
- P-5 : 下水道防食工事 手引書・工法紹介
- P-6 : RT工法・CVスプレー（SQS）工法紹介
- P-7 : BN加盟企業紹介・建設物価に掲載
- P-8 : 鹿児島県構造物メンテナンス協会技術研修会・EE東北 SQSシステム工法協会が参加



2008年
夏号
(第18号)

SQSシステム工法協会『平成20年度(第12回)総会』を開催

SQSシステム工法協会は6月10日（火）亀戸のアンフェリションにおいて平成20年度の総会を開催し、全国から45社81名が出席しました。

総会では議長に三浦会長を選出の上、五十嵐事務局長から平成19年度事業・決算報告並びに監査報告、引き続き平成20年度事業計画と予算案等の議案が提案・審議され、何れも満場一致で承認されました。今年度は、組織改革により拡充された各委員会・専門部会がそれぞれ事業計画を立案し、この目標に向けて積極的に活動していく旨の発表がありました。

その後の事例発表会では、水利系部会から日東成工株式会社の菊池氏による『超速硬化ポリウレタンの頭首工エプロン部への適用』という表題で、SQS工法による試験施工が紹介されました。（詳細は本通信紙面P4に掲載）新たな用途への積極的な挑戦は興味深い内容でした。

続いて、㈱ダイフレックス宮田氏が地下防水部会として『今後に期待される地下防水の市場』を紹介しました。首都圏を中心に地下鉄、高速道路、地下駐車場・駐輪場、アンダーパス等地下土木工事分野でのSQS工法の普及の実情を伝えました。SQS工法を採用した発注者・ゼネコン各社は、優れた防水性と施工の速さを高く評価しており、今後全国に急速に普及していくと思われます。

また、防食部会の㈱ダイフレックス高橋氏から『今後期待される防食の市場』というテーマで、工場廃水施設等従来の上・下水場以外の分野でもポリウレア等がコンクリートの防食工法として大きな可能性があると説明しました。

最後に、入江技術運営委員長（清华大学先進建材開発センター主席研究員兼東京大学大学院コンクリート研究室研究員）に『コンクリート構造物 vs 補修 vs 環境～現状と今後の方向性について～』というテーマで講演頂きました。現在当協会が指向している分野に関して、示唆に富んだ講演に参加者全員高い関心を寄せていきました。

講演会終了後の懇親会では、今年度の協会と会員各位の発展を目指して、活発な交流が持たれました。

レジテクトBN本部

『平成20年度事業責任者会議並びに個別研修会』を開催

6月11日（水）新宿NSビル3階会議室にて、レジテクトBN本部主催の平成20年度事業責任者会議が行われました。計35名参加の中、4つのテーマについて個別研修を行いました。

レジテクト事業本部長増田氏の挨拶の後、常務取締役（購買管掌）甲斐氏が「原油・ナフサ市況考察」というテーマで、原油急騰が原材料に及ぼす影響について講演しました。

今回の原油価格の急騰理由は、まず、サブプライムローン問題を発端に、投機資金が従来の株式・通貨から原油を中心各種原料へと投資対象を変えたこと。さらに、中国・インド・ブラジル等発展途上国での急速な経済の拡大により、エネルギー・鉱物資源・食料の実需が増大していることなどの説明がありました。これらが原材料・製品価格の値上がりに波及したこと、特にレジテクトの主原料（ポリウレタン・ウレア）のナフサ誘導品は、ナフサ価格の変動を直接受ける、といったことを資料に基づき説明されました。

次に、下水道事業団「新マニュアル」対応の「手引書」の発刊について、播磨氏が日本下水道事業団の「マニュアルの改訂概要」と「手引書」のポイントを解説しました。

主な改訂は①性能照査の徹底、②防食被覆工の設計・施工の明確化、③既設コンクリート構造物の補修に関する記載の充実、です。改訂の趣旨は、過去の実例にとらわれず、優れた材料・工法が積極的に採り上げられる環境を整備したことと、補修工事に対する施工基準を厳しくしたことです。これにより10年保証書の提出が義務づけられ、高性能・短期工のレジテクトBT工法が採用される環境が広がりました。

引き続き、高橋氏が日本下水道事業団の改訂に併せ、新しく開発したBT工法の紹介を行いました。施工性の良さなど現物を会場での実演も交え、新製品の特徴を伝えました。（詳細は本通信紙面P5に掲載）

午後からは宮田氏、小倉氏、本谷氏からCVスプレー工法について水路分野の施工事例、ケーソンに対する地下防水の施工事例、JR東日本とのRT工法に関する試験施工の結果と取組みの経過、などを発表しました。

レジテクトBN本部

